月桃（げっとう）通信 No20　2020年５月５日

「大切なものはただひとつ　人間になること」　　石原艶子

・神は土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。
（旧約聖書　創世記２：７）

・「どん底に大地あり」「しっぽもひと役」　永井隆

《沖縄から》2020年戦後75年の今、沖縄本島の15%は米軍基地であり、県民は米軍基地の隙間に生きているような感じです。新たな米中冷戦時代をにらみ、米軍と自衛隊の一体化が進み、与那国、石垣、宮古、奄美大島は防衛最前線としてミサイル基地建設が進んでいます。４月28日は屈辱の日、今に至る琉球処分、沖縄差別の源流となったこの日を県民は忘れません。そこに隠されていた天皇メッセージも知っています。私は、中高生の歴史教育の中で沖縄の歴史をしっかり教えてほしいと切に願っています。沖縄の歴史から日本の姿が見えてきます。歴史の真実を学ぶことなくして未来の平和への歴史を切り拓くことは出来ません。永井隆が書き残した言葉の中に「しっぽもひと役」があります。しっぽは沖縄だと私は考えました。しっぽを切り捨てるのではなくしっぽが担ってきた米ソ冷戦時代からの苦難、日米同盟の最前線を75年も負わされてきた沖縄を、しっぽあってこその日本であることを、今も続く理不尽な現実を共に自分事として考え、連帯して頂きたいと切に願っています。しっぽはしっぽ、振り向き見ようとしなければ見えません。故翁長知事の残した言葉『ウチナーンチュ、ウシェーティナイビランド（沖縄の人を馬鹿にしてはなりませんぞ）』をもう一度かみしめつつ訴えたいと思います。

★沖縄の今―――４月10日普天間基地内の格納庫で消火システムが作動し、発ガン性物質有機フッ素化合物PFOSを含む泡消火剤が22万7100リットルも放出され、その内14万3830リットル（200リットルドラム缶719本分）が基地外に放出され、市街地にも降り、土、川、沿岸、海を汚染し有害な有機フッ素化合物が高濃度で検出されました。基地からの水の汚染は今に始まったことではなく、嘉手納基地からの有機フッ素化合物による水質汚染はピースアクションの仲間達が以前から追求し続けている深刻な問題です。然し住民が米軍や防衛省、県に訴えても日米地位協定という高い壁にはばまれて一向に改善されず、県民は命を脅かされ続けています。

★座り込み抗議行動の現場―――コロナ感染予防のため、４月15日から中断しています。その後も埋め立て工事は強行されていましたが、工事関係者の中にコロナ感染者が発生し20日から中断しています。然し、まもなく埋め立て土砂搬入は再開続行のようです。

★４月21日、コロナ感染者が県内で増加する大変な状況の中、県民への一片の思いやり、配慮もなく防衛局は設計変更届を県に申請しました。玉城知事は工事を中断してまずはコロナ対策をと訴えました。県は不承認ですから再び国と県とは対立し、法廷闘争へと国の法的措置による県の敗訴は折り込み済なのです。問題の軟弱地盤についても有識者が助言する「技術検討会」を設置し工法へのお墨付きをもらい正当性を持たせて申請に及んだのです。辺野古ありき、辺野古が唯一をオウム返しするばかり、辺野古中止は実現するのでしょうか。土木建築技師の立場で辺野古阻止活動をしている奥間政則さんは指摘しています。「新基地建設にはいくら国費を投入しても構わないとする安倍政権と世界初の技術でシェア拡大を担うゼネコンの思惑が合致しているからだ。」と。

◎安和港、塩川港からは三月は従来の５倍を超えるダンプが（1000～1500 台）赤土、土砂を搬出しました。抗議行動の現場では左右両側からダンプが強引に入ってきて、ダンプとの距離は 30 センチ位の時もあり、私達は緊張し、非常な危険にさらされ続けました。
◎また塩川港ではベルトコンベアーを設置して、現在の何倍ものスピードでの土砂搬出が計画されています。県がこの計画を許可しないことを私たちは強く要請しています。コロナ禍による苦難にもかかわらず、政府には中止の意志は全くないかに見えます。然し、このままコロナ禍により経済破綻が深刻になった時、税金で基地を造ることが可能なのでしょうか。もっと国民一人一人が「基地建設をやめて、生きることの苦難に直面している国民を助けるべきだ」と強く抗議すべきだと思います。コロナ禍の陰で沖縄が忘れられているかの今、一人一人が声を出し中止を訴えて欲しいと切に願います。

◎私たちの闘い―――コロナ禍のさ中、現場での行動は中止となっていますが、このままでいいのでしょうか、岐路に立たされています。リーダーの皆さんだけで決定するのではなく幅広くテントに集う仲間達とも対話を重ねて、運動の方向を見い出してほしいと思います。このまま中止が長引くことで高齢者の多い私達は力を失ってしまいかねません。抗議行動をどうゆう形で続行できるのか、全くの中止でないやり方を一人一人が今、考え話し合う時だと思います。

★「辺野古が唯一」の欺瞞―――「最低でも県外」と発言してくれた政治家は唯ひとり民主党政権時の鳩山首相でした。然し数か月にして発言は撤回、辺野古に回帰してしまいました。「最低でも県外」この鳩山さんの一言によって、これまで抑圧され、諦めさせられていた県民の心に火が付き、県民一丸となって辺野古反対闘争へとかり立てられて現在へとつながったのです。何故、鳩山さんは辺野古唯一に回帰してしまったのか。その真相が、ジョン・ミッチェル・コレクションを読み解く（週刊金曜日 1276 号）の中に記されていました。『外務省の役人が来て、こっそりと面会しペーパーを渡された。そこにアメリカのマニュアルで基地は訓練する場所が 65 海里以上離れてはならない、と示されていた。その距離だと沖縄内にしか基地は造れないことになった。それで最低でも県外の約束を反故にしたのだが、今になってこのペーパーのことを外務省は確認できないという。官僚が私を陥れるために作ったのです。』情けないことに一国の総理が官僚の罠にはまってしまったのです。このことが真実かどうかは安倍政権の下で繰り広げられた森友・加計問題、さくらを見る会、その他さまざまな人事や裁判、沖縄に対してのあり様、などなどを見る人にはよく分ることでしょう。政治の腐敗は目に余り、正義は地に落ち、嘘、偽り、騙し、利益優先、自己保身、哲学も理想もない人間性を失った政治家達が、コロナ禍の不安の中、辺野古が唯一を言い続け埋め立て強行というこの狂気を神は見過ごされはしません。このことのツケと結果は何倍にもなって襲いかかってくるでしょう。コロナ禍の中だからこそ言える言葉があり、人間に立ち帰るべきチャンスがあります。人間らしい思いやりの心が沖縄に、辺野古中止へと向けられるようにと私は切に祈っています。

★米軍自殺率、海兵隊が最多 18 年（琉球新報４月 30 日）

『2018 年、現役兵の自殺死亡率 10 万人当り 325 人で 24.8%。最も高いのは海兵隊で 58 人、自殺未遂は 1375 件、歩兵、砲兵の自殺率が高く原因は人間関係が多数を占める。16 年は 37 人、17 年は 43 人と自殺死亡者の増加が問題となっている。』日本の自衛隊員の中でも公表されないだけで自殺者がいることは確かです。このことは何を私達に訴えているのでしょうか。私たちが、日常の中で見ている海兵隊の若者達、その心の内にある苦悩と悲しみ、絶望、アメリカ社会の根深い罪と闇を見た思いがします。人殺しの軍事訓練をして全く非人間的な生き方を強要されるこの現実の中で心を病み絶望し死へと。

軍隊そのものが人を殺す装置なのですから。年々増加する自殺者の心の叫びを私たちは今、聞かなくてはなりません。そして、人殺しの軍隊、武器は要らない、「辺野古新基地は絶対に造ってはいけない」を叫び訴え続けることをどんな方法であれやめてはいけません。それが今を生きている私たち一人一人の責任だと思います。

★コロナウイルスが教えてくれたこと

琉球新報 29 日の一面、『県内失業率最下位 3.0%、悪化幅全国最大 0.5 ポイント増』米軍基地と観光と二本の柱で成り立ってきた沖縄経済、観光立県のもろさが露呈、観光につながるすべての業種を直撃し深刻な事態が進行、それにもかかわらずホテル建設は進み、供給過剰、過当競争が激化。利益追求、拡大一途止まることのない欲望からくる観光業、こんなやり方が永遠に続くはずはありません。コロナショックは沖縄の観光の間違いを教えてくれました。真の観光とは何か、自然を大切に、県民の生活環境を大切にする根本的な転換を問いかけています。

★コロナウイルスは、私たちが当り前と思い込んでいたことの全てを打ちこわし、隠されていた人々の生活をあらわにしました。そのひとつがネットカフェでひっそりと暮していた何千人もの人々が追い出されたこと、夜の仕事をしながら子育てをしている女性達、この間まで華々しかったバス会社と運転手の人達、外食産業と中小企業、ありとあらゆる業種の人々が職を失い、収入を失い明日の生活におびえ、不安につきのめされています。学生達や芸術に生きる人々などなど。夢も希望も失いかける危機的状態が進んでいます。ある感染症予防に従事してきた医師の言葉がグサリと私の心に突き刺さっています。もしコロナウイルスを封じ込めることに失敗し長期に渡るなら、社会は壊滅的打撃を受け、社会は根本から変ってしまい青年達は将来に全く夢を持てない世の中になると。孫たちが生きる時代の苦難を思い心が震え戦きました。こんな時、いつも部屋の中にあった永井隆の言葉が飛び込んできました。「どん底に大地あり」私達はまだどん底を見ていないし、見ようとはしないでしょう。オリンピックを中止しない安倍政権はどん底で明日の命も危い国民の危機を分かってはいません。辺野古も中止しない程の、今だ経済成長を夢見ている愚かな政府なのですから。軍事産業、死の商人、闇の力、悪魔の業に加担することをやめて方向転換をしましょう。共に生きるために、人類は地球家族なのですから。神は人に命の息を吹き入れ、人は生きる者となったことを聖書は伝えています。神に造られ神によって生かされている人間だから、人は人を愛する心を持ち、平和を作り出す心を持っています。闇の力、悪魔の力よりもはるかに光の力は永遠であり命が躍動しているのです。私はこのコロナ禍の苦難を通して人々は限りない欲望を追求することが滅びに向うことに気付いたと思います。そしてそこから本来持っている人間の良心が目覚め、愛が豊かに生れ、思いやりの心がいっぱいになると信じています。どん底の中から必ず本物が芽生え、それが希望へとつながるでしょう。どん底に大地を見い出すなら大地は命を育んでくれるでしょう。土に帰るべき人間なのですから大地に帰り、土を耕し、農を愛し、食物を生産しましょう。農業、林業をないがしろにして自給率 40%のあり方を今、変えることをコロナは教えてくれています。愛農会と愛農高校の建学の精神である神と人と土を愛する三愛精神が日本と世界を変えるキーワードだと私は思っています。大地は戦争、核爆発、原発事故、地震、津波、洪水、火山、地球上の全ての災害、病原菌との戦いなど、すべてを受け入れて尚、2020 年の私達人類を生かしてくれています。このような時代、大切なのは「死生観」を持つことだとある学者さんがテレビで話していました。私たち人類はどこから来てどこへ行くのか、この肉体は必ず死を迎えます。人としていかに生きるかの問いの前に私たちは立たされています。人間となった一人一人がこの社会を変えていくのです。人間が人間となるために「どん底に大地あり」の言葉をかみ

しめつつ、天と地からの神の声を聴くものでありたいと思います。

◎あなたの天をあなたの指の業をわたしは仰ぎます。月も星も、あなたが配置なさったもの。そのあなたが御心にとめて下さるとは人は何ものなのでしょう。（旧約聖書　詩篇７：4～5）

◎主よあなたの慈しみは天にあなたの真実は大空に満ちている。（詩篇　36：8）

ガンジー魂の言葉から

◎人間性を信じよう、人を信じる心をなくしてはいけない。人間性とは広い海のようなもの。数滴の汚れで、海全体が汚れることはない。

◎恐れるな、道はひらける

突然の災難が降りかかったとき、人は恐怖に立ちすくむ、この厄災で、財産や社会的な地位や名誉を失うのではないか、愛する者や自分の身が危険にさらされるかもしれない。そんな恐怖でわたしたちの目は曇り、進むべき道を見失う。しかしわたしたちにはもともと困難を乗り越える力が授けられている、心の中からこの恐れを追い出せば、その力がよみがえる。恐れるな、道はひらける。

◎グローバル経済が生み出す暴力―――現在、わたしたちを支配するグローバル経済が、いかに欠点に満ち、改革すべきことが山積みなのかを知りたければ、欧米諸国の良心的な人々でさえも隠したがる事実を見ればいい。それはグローバル経済が生み出す果実のことだ。現在、先進国で暮らす人々の、極めて豊かで便利な都市生活はアジア、アフリカ、その他世界中から持ち去られた財貨によってのみ、可能となっているのだから。

近況報告

庭のポインセチアが真紅な色を保ち楽しませてくれています。２月と４月が入れ代ったような４月の寒さのせいだと思います。エンジェルトランペットも沢山花を付けています。白いテッポウユリも咲き始めました。～コロナ来て白百合咲けど友は来たらず～淋しい自粛の日々です。

私は昨年末から左足と左のお尻が痛み、椎間板ヘルニアと診断され、痛み止めを服用しながら抗議行動にも参加し、普通の生活をしてきましたが、３月末、急激に悪化して激痛に耐えつつ安静の身となりました。痛み止め生活も限界に達し、来る５月 12 日に手術を受けることになりました。

月桃通信 20 号、神様からの力を頂いて寝ながら書くことが出来ました。５月、６月とゆっくり休み、また元気になってから神様から力を頂けた時に 21 号を配信したいと願っています。すべてを神の御手に委ねて感謝しております。

コロナウイルス感染の終息と、皆様お一人お一人がコロナウイルス感染から守られますことをお祈り致します。